

特集「放射能」

モニタリングポストによる空間放射線量の測定

長野県では、平成3年に科学技術庁（現文部科学省）の委託事業により当所の屋上にモニタリングポストを設置して以来、空間放射線量の測定を連続して実施しています。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響により、同年3月15日には一時的に $0.107\mu\text{Sv}$ （マイクロシーベルト）/hまで空間放射線量が上昇しましたが、その後は低下し、現在は事故前の平均値のレベルまで下がっています。（図1）

このモニタリングポストによる常時測定を今年度か

ら当所を含め県内7箇所（長野市、飯山市、松本市、大町市、軽井沢町、諏訪市、飯田市）に増やし監視を強化しています（図2）。それぞれの測定場所における空間放射線量は文部科学省のホームページ「放射線モニタリング情報」でご覧いただけます。

（<http://radioactivity.mext.go.jp/map/ja/>）

今後も測定を継続し、高い空間放射線量が確認された場合などは、速やかにお知らせするとともに、その要因などの調査をいたします。

（酒井文雄 kanken-taiki@pref.nagano.lg.jp）

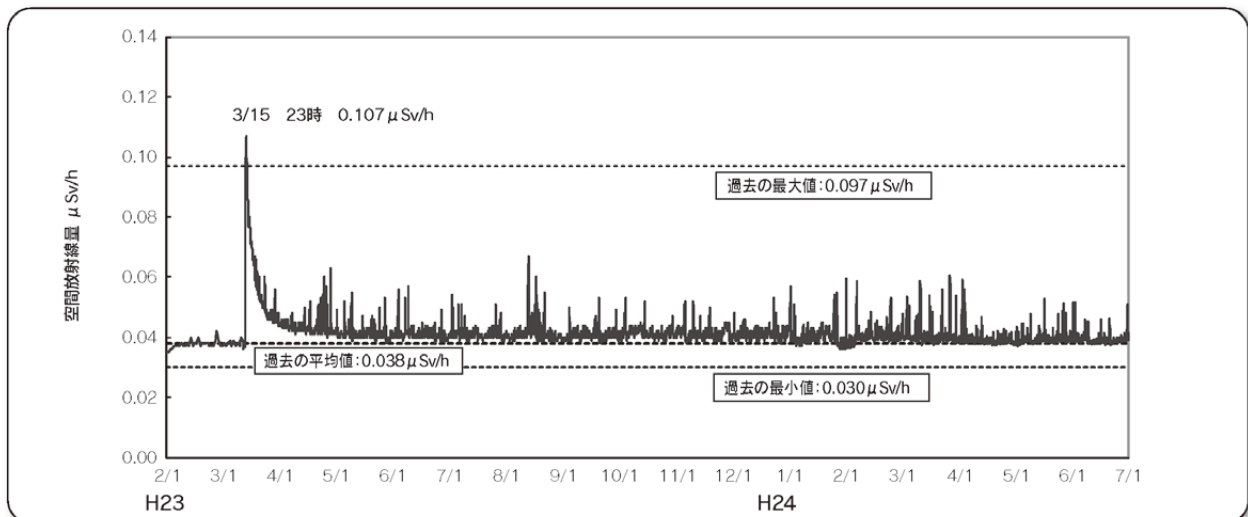


図1 環境保全研究所のモニタリングポストによる空間放射線量の測定

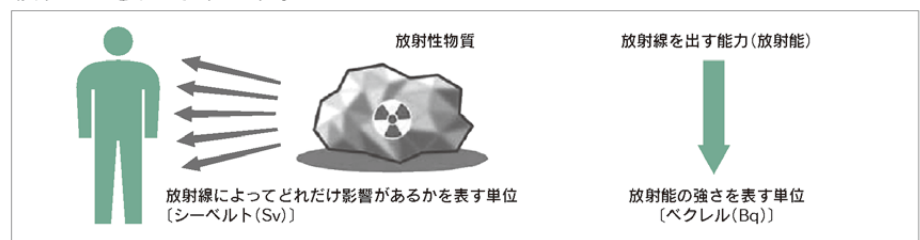


図2 モニタリングポスト
（松本市合同庁舎局）

シーベルトとベクレルの違い

放射線による人体への影響度合いを表す単位を「シーベルト(Sv)」、放射性物質が放射線を出す能力を表す単位を「ベクレル(Bq)」といいます。

放射性物質にはさまざまな種類があり、放射性物質によって、放出される放射線の種類やエネルギーの大きさが異なるため、これにより人体が受ける影響は異なります。このため、放射線が人体に与える影響は、放射性物質の放射線量(ベクレル)の大きさを比較するのではなく、放射線の種類やエネルギーの大きさ、放射線を受ける身体の部位なども考慮した数値(シーベルト)で比較する必要があります。



出典：資源エネルギー庁「原子力 2010」